

(仮称) 南花台中央公園整備事業

基本計画書

令和5年3月

河内長野市

【 目 次 】

1. 基本計画策定の目的	P. 1
(1) 計画の背景と目的	
(2) 「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業」の経緯	
(3) 「咲っく南花台プロジェクト」について	
(4) 基本計画の位置づけ	
(5) 基本計画策定フロー	
2. 計画地の概要について	P. 10
(1) 計画地の概要	
(2) 計画地の位置	
(3) 上位計画・関連計画の位置付け	
(4) 自然・社会・人文的条件	
3. 敷地分析	P. 16
(1) 計画地と周辺との関係	
4. 住民意向の把握	P. 19
(1) 既往調査等による住民意向の整理	
(2) 子育て世代向けアンケートによる住民意向の整理	
5. スタジアム整備による効果と配慮事項の整理	P. 22
(1) スタジアム整備による効果	
(2) スタジアム整備における配慮事項の整理	
6. 公園整備におけるコンセプト及び整備方針	P. 25
(1) 南花台の生い立ち、近年の変化、未来	
(2) コンセプト・整備方針	
7. 施設整備計画	P. 27
(1) 施設整備計画	
(2) 施設整備の基本要件	
(3) 防災機能の検討	
(4) 周辺環境への影響予測	
8. 基本計画図の作成	P. 55
(1) 基本計画図	
(2) イメージパース	

9. 整備手法の検討	P. 63
(1) 整備手法	
10. 事業スケジュール	P. 65
11. 公園づくり・運営の考え方	P. 66
(1) 公園づくりの考え方	
(2) 公園を通じた地域コミュニティについて	
(3) 管理運営・マネジメントの考え方	
12. 管理運営手法の検討	P. 69
(1) 管理運営手法の整理	
(2) 他地区事例における管理運営スキーム	
(3) 公園の収支の想定	
(4) 本公園の管理運営スキームの検討	
(5) 今後の課題	

1. 基本計画策定の目的

(1) 計画の背景と目的

河内長野市は大阪府郊外に立地し、昭和40年代から開発団地の整備に伴う急激な人口増加により発展してきた。しかし、現在では開発団地における様々な課題を背負い、**少子高齢化に伴い大阪府下で最も人口減少・少子高齢化が進んでいる。**

今回（仮称）南花台中央公園（以下本公園）を計画する南花台地区は、昭和57年にまち開きをした面積98haの開発団地であるが、まち開きから約40年が経過し、その他の開発団地と同様に**典型的なオールドニュータウン**となっている。一方で、スーパーなどの一定の生活機能を有しており、開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置することから、河内長野市の第5次総合計画にて「**丘の生活拠点**」として位置付けられている。また、立地適正化計画では、都市機能誘導区域、居住誘導区域の位置づけのもと、人口の維持を目指すエリアである。



▲大阪府における河内長野市の位置及び、市における南花台地区の位置



▲南花台地区の風景（出典：UR都市機構ホームページ）

(2) 「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業」の経緯

南花台地区では、少子高齢化・人口減少が著しく進む開発団地の再生モデル構築を目指し、「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業」（南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業の愛称、以下、「咲っく南花台プロジェクト」という）を立ちあげ、大阪府、河内長野市、関西大学、UR都市機構等の公民学連携により、「地域住民が住み慣れた場所で健康で生きがいをもって多世代が交流しながら暮らし続けるまち」を目指して、継続的にまちづくりを進めている。また、南花台の未来を見据えた、子育て世代を呼び込むまちづくりを目指した地域のブランディングにも取り組んでいる。

【南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業経緯】

年月	事業経緯
H26.9	大阪府と河内長野市にて「開発団地の再生を目的とするスマートエイジング・シティの具体化に向けた協力に関する協定」を締結
H26.10	「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業立ち上げ
H27.10	「コノミヤテラス」をスーパーコノミヤ内にまちづくり拠点としてオープン ※コノミヤテラスを中心にまちの課題解決につながる仕組みを構築
H28.2～3	くらしと地域に関する住民意識調査
H28.3	第5次総合計画に南花台を「丘の生活拠点」と位置づけ
H29.4	南花台西小跡地を活用した錦秀会看護専門学校の設置 ※人口芝サッカー場を整備、地域開放 「咲っく南花台事業者の会」発足 ※南花台エリアを中心とした50以上の事業者が加入
H29.12	UR都市機構において「UR南花台団地集約型団地再生事業」着手
H30.2	「南花台地区「丘の生活拠点」に関するまちづくり連携協定」締結 ※河内長野市・UR都市機構・関西大学による3者連携協定
H30.12	「南花台地区「丘の生活拠点」形成に向けたまちづくり連携協定」締結 ※河内長野市、関西大学、(株)コノミヤによる3者連携協定
R1	環境省「IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入事業」採択 ※地域住民主体による移動支援 南花台モビリティ「クルクル」運行
R2.10	河内長野市と(株)スペランツァ大阪「ホームタウン契約」を締結
R2.12	UR南花台団地集約跡地の活用に関するアンケート実施
R3.7	サッカーチームと連携したまちづくりに関する説明会実施
R3.9	サッカースタジアム整備と地域内公園のあり方に関するアンケート調査実施 「サッカーチームと連携したまちづくり」に関する公聴会実施
R3.11～ R4.2	公園ワークショップ実施 ※第1回、第2回（対面形式でのワークショップ実施） 第3回（紙面とインターネット上にて、南花台の公園に関するアンケート結果、先進事例紹介を行い、再度意見収集を実施）
R3	団地内公園再編と運営の産官学民連携可能性調査実施
R4.3	(株)スペランツァ大阪と「サッカースタジアムの建設及び管理運営に関する基本協定書」を締結

(3) 「咲っく南花台プロジェクト」について

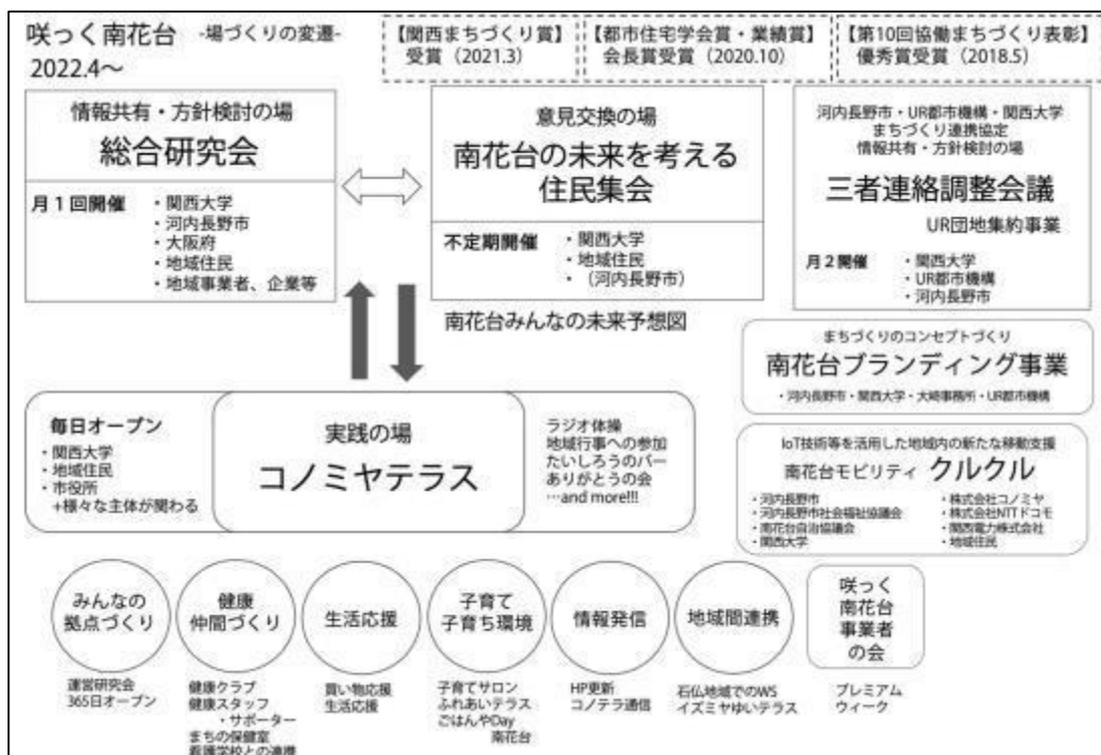
①「咲っく南花台プロジェクト」の取り組み概要

2014年9月から、咲っく南花台の取り組みが開始された。これは、大阪府と大阪市による「大阪府市医療戦略会議」が2014年1月に公表した提言での7つの具体的戦略の1つ「スマートエイジング・シティ」を具現化するものである。「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」を柱とした総合的なまちづくりを行うべく、関西大学が総合コーディネーター役となり、地域住民を主体に行政、大学、企業が連携・協働で取り組んでいる。この取り組みを通じ、南花台は新たなまちづくり手法や新たな技術の効果的な活用方法を生み出し、数々の全国モデルを創出している。なお、本事業の推進に関し、大阪府と河内長野市は連携協定を締結して実施している。

②「咲っく南花台プロジェクト」の推進体制

月1回各主体の代表者が集まる「総合研究会」、年に1回の「中間報告会」を開催し、その他プロジェクトごとに会議を重ね、「健康仲間づくり」「生活応援」「みんなの拠点づくり」「まちの情報発信」「子育て・子育て環境づくり」「咲っく南花台事業者の会」の6つのプロジェクトによる多様な取り組みを同時多発的に展開・継続してきた。

2015年10月に365日オープン地域のまちづくりコミュニティ拠点「コノミヤテラス」を開設し、それぞれのプロジェクトが具体的に動き出した。上記6つのプロジェクトは、少しずつ地域のニーズに合った形へと変化し、着実にまちづくりに必要不可欠な仕組みの構築を積み上げている。また、南花台地域だけでなく、市内の他地域への横展開も進んでいる。



▲咲っく南花台の推進体制

■みんなの拠点づくりプロジェクト「コノミヤテラス」

住民とのワークショップでの議論をもとに、地域の中心に位置するスーパーコノミヤ内に2015年10月に365日オープン地域のまちづくりコミュニティ拠点としてコノミヤテラスがオープンした。「占有せず広場のような場所とし、誰でも参加できる活動をまずやってみよう!」をモットーに活動を展開し、開設当初から行っている「毎朝10時のラジオ体操」や月に一度の持ち寄り食事会「たいしろうのバー」など、さまざまな多世代交流の機会を企画してきた。当初は大学や市が主導するものばかりだったが、現在は地域住民主体の活動が増えている。若い世代の活動の場にもなっており、手芸やDIY好きな若年層が集まり、コノミヤテラスでのイベント開催から地域行事への参加へとつながり、地域活動を担う世代交代も緩やかに起こりつつある。人々を繋ぐ地域のプラットフォームとしての機能を持ち始めている。



▲コノミヤテラスの様子

■健康仲間づくりプロジェクト「咲っく南花台健康クラブ」

健康寿命の延伸を目的とし、地域住民間で健康づくりのための様々な取り組みを通し、仲間づくりを行う「咲っく南花台健康クラブ」を実施している。大阪大谷大学、摂南大学との連携による健康講座や健康体操、南花台在住の医療福祉関係の有資格者が健康スタッフとして行うコノテラカフェ・健康相談会、元気体操や歩こう会等住民の自発的な取り組みといった、様々な健康プログラムを実施してきた。それらに参加することで、健康ポイントを貯め、ポイントが貯まれば地域商品券（後述の咲っく南花台事業者の会発行）と交換できるような地域内循環と健康意識の向上を行っている。



▲咲っく南花台健康クラブの様子

■生活応援プロジェクト「生活応援 お互いさん」

平成 27 年度に関西大学社会学部の与謝野教授が実施した「くらしと地域に関する住民意識調査」により、**将来的に買い物への不安を抱えている住民が多い**ことがわかり、**買い物を支え合える仕組みづくり**を行おうと「**買い物応援プロジェクト**」がスタート。その後、**買い物応援**を実施する中で集まったニーズをもとに、粗大ゴミ出しや草引きなど、**より多様な支援**を行うべく、2018 年 6 月『生活応援「お互いさん」』が発足した。**地域住民の見守り等も兼ねた活動**となっており、2022 年 10 月現在、有償ボランティア活動として、月に 30 件ほどの依頼をこなしている。



▲生活応援（草引き）の様子

■子育て子育て環境づくりプロジェクト「ふれあいテラス」

子育て・子育てに係る既存活動の充実支援、子育て世代のニーズ把握とネットワーク構築、子育てしやすい環境づくりにより、若い世代の転入促進を目的とし、子育て子育て環境づくりに取り組んでいる。子どもたち・親子のための場所をつくりたいと、地域の有志のボランティアスタッフが実施する、就学前の親子が自由に遊んだり交流できる子育てサロン「ふれあいテラス」を実施している。利用者は、南花台住民に限らず、他地域からの利用者も多く、**子育て世代の声を生で聞くような場**となっている。



▲ふれあいテラスの様子

■まちの情報発信プロジェクト「コノテラ通信」「咲っく南花台.com」

コノミヤテラスを中心とした咲っく南花台の活動に関する情報を発信する広報誌「コノテラ通信」を毎月発行している。表紙は南花台や周辺地域の季節に合わせた魅力的な風景写真を中心に構成し、地域の方が撮影を担当している。記事は、大学生の提案記事や地域住民のコラムを載せており、住民参加の編集のカタチを模索している。地域のボランティアメンバーが、南花台地域に全戸配布している。プロジェクト HP「咲っく南花台.com」では、地域活動や地域事業者の事業などを発信し、情報発信の強化を進めている。



▲コノテラ通信

■「咲っく南花台事業者の会」

南花台地域において、地域事業者の事業力強化と会員相互の啓発を図り、地域住民の消費生活の向上、地域社会に貢献することなどを目的として2017年4月に「咲っく南花台事業者の会」が発足した。大きな特徴は地域小売店やスーパー・学校法人など、業種・業態が混ざり合っていることである。現在は偶数月に「南花台プレミアム」を実施しており、期間中は、一部の加盟店舗でノベルティの配布や商品の割引等を実施、加えて、店舗を巡るようにクイズラリーを行ったり、抽選で地域商品券が当たる応募券の配布といった、南花台地域を盛り上げる取り組みを行なっている。



▲事業者の会によるイベント「南花台プレミアム」のチラシ

③南花台の未来に向けた取り組み

■南花台モビリティ「クルクル」

市や社会福祉協議会が後方支援を行いながら、AI 運行バスシステムを用いて、低速電動ゴルフカートを住民で運行させ、南花台地域内での住民主体の新たな移動支援に取り組んでいる。現在は自動運転の実装にも取り組んでいる。定時・定ルートの設定を行い、ルート上に敷いた電磁誘導線を車載センサーが感知して走行する自動運転走行が行われており、将来的に担い手不足になった場合にも、クルクルが地域内を走り続けていく未来に向けて、仕組みや体制づくりを行っている。



▲クルクル運行の様子

■UR 南花台団地集約型団地再生事業

南花台地区では、平成 29 年 12 月から「UR 南花台団地集約型団地再生事業」を開始しており、UR 団地集約事業・公園集約事業（公園整備）を一体的に実施し、開発団地の再編モデルの構築を図っている。



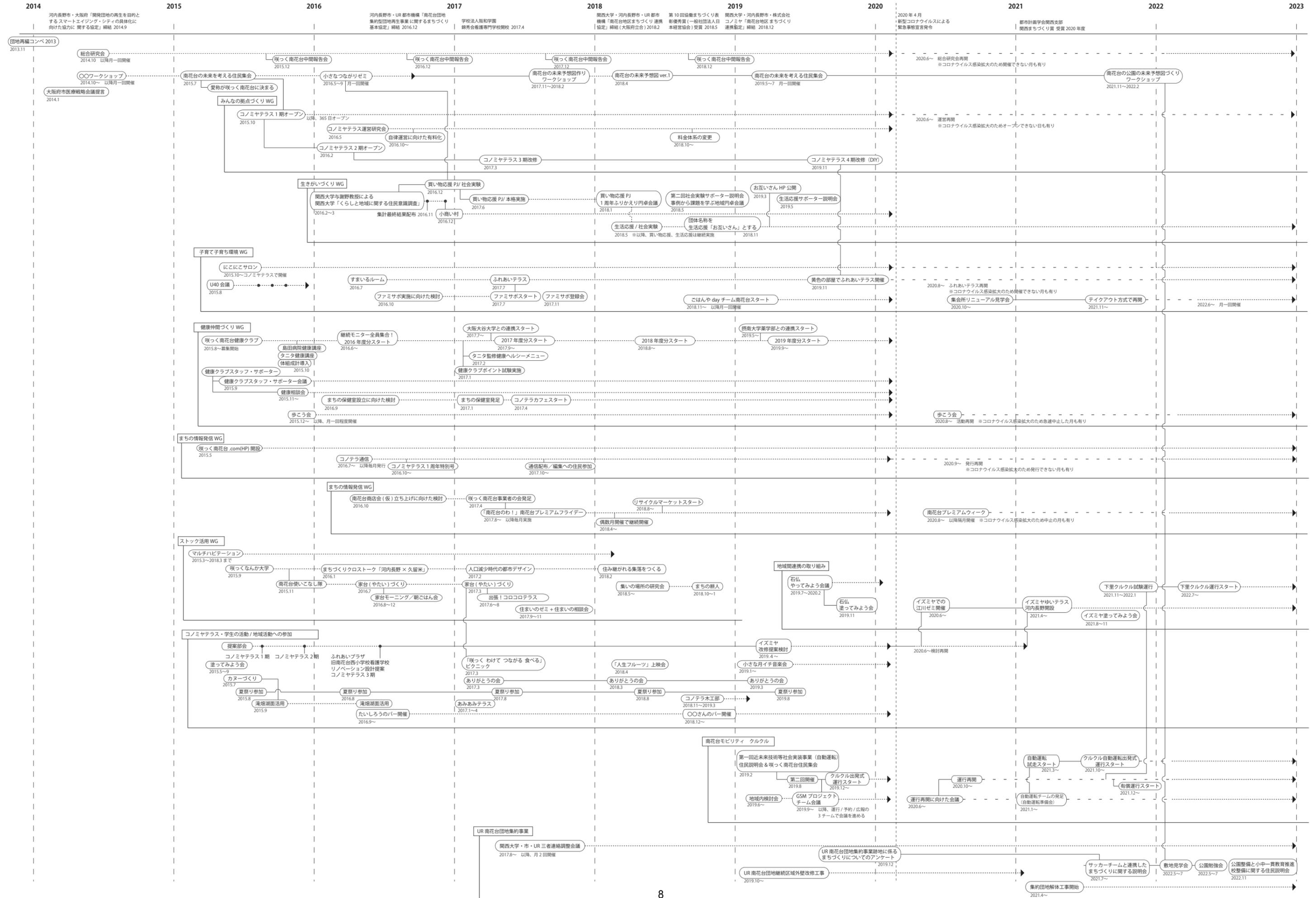
外壁塗装



【継続区域の入居促進】

継続区域は外壁の塗り替え工事が完了し、周りの環境に溶け込む団地に生まれ変わり、集約事業のための空住戸の入居制限が説かれ、令和 3 年 1 月より入居募集が約 10 年ぶりに始まった。UR 都市機構、市、関西大学の連携により子育て世帯を中心とした転入促進を進めている。

咲く南花台プロジェクト年表 (2022.12 現在)



(4) 基本計画の位置づけ

本公園は、UR 団地集約事業・公園集約事業により、UR 団地の跡地に新たな公園整備を行うものであり、本公園を整備することにより南花台地区の活性化と魅力向上を図り、市全体への波及効果を期待するものである。なお、今回整備する公園は公園内にサッカースタジアムを整備する計画としており、サッカースタジアムは、一般社団法人日本女子サッカーリーグ1部（以下なでこ1部）に所属する女子サッカーチーム「スペランツァ大阪」の本拠地としても活用する。そのため、日常的な公園利用に加え、サッカーチームと連携した新たなまちづくりを目指すものとする。

本基本計画は、これまでの南花台における「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業」の経緯を踏まえ、公園整備のコンセプト、整備方針を設定するとともに、整備計画における基本的な条件を定めるものとする。

(5) 基本計画策定フロー

基本計画策定は、以下の策定フローに従って進めるものとする。

■基本計画策定フロー

